

# 無量寿

【発行】雲夢山寿命寺

2019  
秋

## CONTENTS

[P1]報恩講案内 [P2-3]報恩講講師法話 [P4]公開講座  
レポート、近隣寺院報恩講日程、「ことぶき寄席」案内

大津市雄琴 3-19-36 TEL/FAX 077-572-5125 <https://jumyouji.net/>

## 2019 (令和元) 年 宗祖親鸞聖人 報恩講

### 10/26 土

[逮夜] 14:00

[初夜] 19:00

### 10/27 日

[晨朝] 7:00

[日中] 10:00

[逮夜] 13:30

### 【法話】藤澤信照 師

東近江市浄光寺住職・本願寺派布教使

※次頁に経歴とご法話を記載しています。



安彦良和「親鸞」  
『親鸞の歩き方』(ダイヤモンド社)から

今年も報恩講を迎えます。「恩」という言葉の起源はインドの原始仏教にあると聞きました。パリー語の「カタンニユ」がそれで「なされたことを知る者」という意味だそうです▼去年の報恩講で、講師の浅野執持師が「ちーちゃん」という九十五歳のお婆さんの話を紹介してくださいました。今治から京都の本山まで車でお連れした際、トンネルを通る度に「またあった」と呟かれる。京都に着いて訳を聞くと「ひとつ造るだけでも途方もないご苦労だろうに、数えてみたら四十五もありました。なんとも有難いことですね」と仰ったそうです▼物好きなお婆さんだと思われるかもしれませんが、でも私自身を振り返れば、トンネルに入れば眠いとか鬱陶しいとか、そんなことしか感じていませんでした。感謝と不満。どちらが豊かな生き方かと問われたら、答えは明白です▼思えば私は自分の為になされたことを殆ど知らず、知ろうともせず、それでいて平気な顔で生きています。でも仏道とはそのことに目を見開いていく生き方ではないかもしれません。この度の報恩講、しっかりとお聴聞させていただきます。

報恩講ご講師法話

# 「我一人の為と 思うべし」

今年の報恩講のご講師の紹介を兼ねて、先生の著書から短いご法話を転載させていただきま。先生の暖かく優しいお話を皆さんと一緒に聴けることが、今から楽しみです。

浄光寺ではご法話を聞く前に、お参りの方々と共に「聴聞の心得」を唱えます。「聴聞の心得」とは、

- 一、今日のこの御縁は、初事と思うべし
- 一、今日のこの御縁は、我一人の為と思うべし
- 一、今日のこの御縁は、今生最後と思うべし

の三箇条です。そのうち第二条の意味は、「今日、このご法座で聞かせていただくご法話は、私一人のためのものであります」と心得よ、ということ。です。

私たちは、「今日のご法話は、いいご法話だった」と思うことはあっても、なかなか「私のご法話だった」とは思えないものです。つい、「あの人に聞かせるべきご法話だった」とか、「なかなかあの人は、ご法話を聞かないからね」と、他人事にしてしまいます。もちろん、ご法話を聞いた喜びを他の人も分かち合いたいという思いは、報恩感謝という意味では大切なことなのですが、肝心の「私の後生の一大事」ということを忘れてしまいがちです。お聴聞とか、信心というのは、誰にも代わってもらえない私の人生を、私自身がどう生き抜くかという問題ですから、それこそ一人一人の問題なのです。



**藤澤信照（ふじさわしんしょう）師**

1958年、鹿児島県川内市（現、薩摩川内市）生まれ。鹿児島大学理学部卒業。行信仏教学院ならびに行信教校卒業後、滋賀県東近江市浄光寺に入寺。龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程修了。現在、滋賀県東近江市浄光寺住職、行信教校講師、布教使課程専任講師。

著書『大きな字で読みやすい 浄土真宗やわらか法話2』、2018年真宗教団連合法語カレンダー『月々のことば』（いずれも共著）

**『親によばれて』**

藤澤信照／響流書房  
(税込 250円)

下記のご法話は、こちらの本から転載しました。先生が年5回発行している寺報に綴ったご法話から、厳選されたものが収録されています。

時々の流行歌の歌詞など、身近な話題を切り口にした優しく易



しい法話ばかりです。一話一話が短いので空いた時間に少しずつ読めるのも魅力です。

本書は電子書籍として発行されており、スマートフォン、タブレット、パソコンなどでお読みいただけます。お求めは右のQRコードからどうぞ。



親鸞聖人は『歎異抄』の後序に、「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとへに親鸞一人がためなりけり」といわれています。これは、親鸞聖人ただお一人のためのご本願である、ということではありません。仏さまは私たちに対して「十方の衆生よ」とよびかけられますが、私にとつての「仏さまと私」の関係は、つねに「対一」であることを知らせてくださった言葉なのです。たとえば四人の子どもを持つ親が、子どもたちみんなに「子どもたちよ」とよびかけたとき、子どもたちはそれぞれ「親が私をよんでいる」と思うのに似ています。つまり、仏さまが「いつでも」「どこでも」「誰に対しても」等しく「あなたがたは私の子どもだよ」とよびかけてくださるとき、私たちは「いま」「ここにいる」「この私」を仏さまがよんでいてくださっている、と聞かせていただくのです。

私自身、そんな大切なことを忘れていたことに、ある時、ふと気づかせてもらいました。あるお家のご法事にお参りし、お勤めを始めようと仏さまの方に向かった時のことです。ふと、「今までじっくりと仏さまの顔を拝むことがなかったなあ」という思いがわきおこり、仏さまの顔をじつと眺めてみることにしました。しばらくすると、仏さまがともやさしい眼差しで、私を温かく包みこんでくださっていると思えてきたのです。思えば、私はご門徒さまのご法事の時、もったいなくも特等席に座らせてもらっていたのです。皆さまも一度、特等席に座って、仏さまの顔をじっくりと拝まれてはいかがでしょう。

## 連続公開講座「うちはなぜ南無阿弥陀仏なのか」の第1回が開催されました。

9月25日夜、標題の公開講座が開催され、門信徒約20名が参加くださいました。講師の西義人(にしよしんど)先生は龍谷大学や京都女子大学で日ごろ真宗のみ教えに触れる機会のない学生方にむけた講義をされており、この日の講座でも易しいながら肝要をしっかりとおさえた話を聞かせて下さいました。



参加者からは「親しんでいる正信偈の登場人物が講義の中で3人も出てきました。明日からお話の内容を思い出しながらかお勤めしたいと思えます」、「法然上人について気にはなっていたのですが、自学では後回しになっていました。今回学ぶことができてよかったです」など、好評を頂きました。

講座は全4回。もちろん途中回からの参加も大歓迎。日程は下記の通り。

- ◆第2回：11/27(水)「法然聖人から教えられた『浄土真宗』」
- ◆第3回：1/22(水)「危険視された南無阿弥陀仏」
- ◆第4回：3/25(水)「それでも宗祖が親鸞聖人な理由」

※詳細は寿命寺ホームページをご確認ください。

## 近隣寺院報恩講のご案内

この時期、寿命寺の近隣寺院でも順次報恩講がお勤まりになります。婦人会の皆様には寿命寺代表として当番で各寺院の中日にお参り頂いていますが、もちろんどなたでも、どこのお寺でも、どの日でも、どのお座でも、自由にお参り頂けます。各寺とも、ごえんさんがオススメの布教使さんを遠近各地から招かれています。

近くで続けてこんなに法話を聞けるのはこの時期だけです。どうぞ万障繰り合わせてお参りください。

- ◆慶専寺(和適) 10/5・6 【講師】比賣宮修三師(彦根市)
- ◆龍光寺(平尾) 10/11・12・13 【講師】西郷教信師(彦根市)
- ◆専念寺(上仰木) 10/19・20・21 【講師】未定
- ◆正源寺(真野浜) 11/2・3・4 【講師】大竹輝道師(三重県)
- ◆圓成寺(衣川) 11/8・9・10 【講師】中井至師(草津市)

## 「ことぶき寄席」のご案内



11/8(金)夜、寿命寺本堂で落語会を開催します。実は以前から密かにあためていた落語会の企画、この度めでたくご縁が整い、開催の運びとなりました。

落語好きの方はもちろん、あまり馴染みない方も、テレビ等では伝わらない、生の落語のおかしみ、たのしみをきくと感じていただけることでしょう。

出演は、関西ではなかなか聞くことができない落語立川流、新進気鋭の立川志の彦さん。

貴重な機会をお聞き逃しのないよう、皆様方のご来場心よりお待ちしております。詳細・ご予約は別紙チラシか寿命寺ホームページをご確認ください。

## 家庭でも報恩講を!

しつこい!と叱られても何度でも言います。門徒ならお家のお仏壇でも報恩講をお勤めください。どうかお子さんやお孫さんにも、み仏さまに手を合わせる大切さを伝えてください。

分からないことがあれば住職まで遠慮なくお声がけを!

